

2026

# 国語

## 注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は㊦から㊧まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年生の「わたし」（真子）が所属する合唱クラブは、毎年のように全国大会で金賞を受賞する強豪校にもかかわらず、昨年度の大会で金賞を逃してしまった。部長の穂乃花や顧問の長谷川先生は今年度金賞をとれるように厳しく部員を指導するが、大会前の練習で八人の欠席者が出してしまった。

「いない子から連絡をもらってる人は手を挙げて」

前に立つ穂乃花がみんなを見回して言ったけれど、手を挙げる子はいない。本当は連絡をもらってるけど、この空気じゃ、名乗り出ることができないのかもしれない。

「誰もいないの？」

後ろから誰かにこづかれていますよ、よゆうのない声で穂乃花は聞いた。でも、体育館は I を殺してシーンとするばかりだ。

「ねえ、美結はアカリと仲いいよね？ 何か聞いてないの？」

a しびれを切らした穂乃花が、姿を見せないメンバーと仲良しの子に聞く。

アルトパートの美結は、泣きそうな顔で「わかんないです……」と首を横に振った。

「本当にわかんないの？」

質問を重ねる穂乃花に、わたしとこの前もめたばかりの芽衣が「隠さないで言いなよ」と、<sup>①</sup>まるで犯人を尋問するような口調で参戦する。

「……昨日、ちょっと具合が悪そうでした」

「体調不良で休んでるってこと？」

穂乃花が一步、美結に近づく。美結の肩がビクリと震えて、わたしはあわてて二人の間にわって入った。

「連絡もらってないって言ってるんだから、美結にこれ以上聞いたってしょうがないよ」

「他人事みたいな顔で言わないでよ。パートリーダーの真子は何も聞いてないの？」

「何も聞いてないよ。体調不良かもしれないし、どうしても外せない用事があったのかもしれないでしょ？」

「なら、休むって連絡をすればいい話じゃない」

「具合が悪いから休みますって連絡できないくらい、長谷川先生や、わたしたちが怖いってことじゃないの？」  
言った瞬間、穂乃花の目が赤く光ったように見えた。

ビンタするなら、してみる。

奥歯にグツと力を入れた瞬間、体育館に長谷川先生が入ってきた。

穂乃花は一瞬だけ頬を強ばらせたけれど、いつも通り号令をかけようとした。  
ところが、長谷川先生は「いいから」とそれを止めてしまう。

「八人、休んでるよね？」

穂乃花の横に立った長谷川先生は、呆れていた。

眉をハの字に下げて、Ⅱをがっくり落としていた。

「さつき、それぞれのお家から連絡がありました。男子五人は体調不良で休み」

「先生、その五人は絶対にズル休みです」

早速、葵が言いつけた。本当のところはわからないけれど、昨日の勇人の「はいはい、ごめんなさい」という**b**ふて腐れた態度を思い出すと、たぶんズル休みなんだろう。

「残りの三人は、親御さんから『クラブをやめたい』という連絡がありました」

長谷川先生は、人形のようにぎこちない動きで、穂乃花を見た。

「横山穂乃花さん、あなたが下級生にきびしすぎるのが心の傷になってしまってるって、そうおっしゃる親御さんがいるんだけど」

「……え？」

② 穂乃花の声は、か細かった。声というか、吐息みただった。

「わたしのせい、ですか？」

「本人だけじゃなくて親御さんまでそう言ってるんだから、あなたも自分の言葉や行動を反省して。後輩に指導するのは大切だけど、まさか部長だからって、いじめみたいなことをしてるんじゃないでしょうね？」  
(注) 菅野さんが教室に来られないのも、担任の先生から合唱クラブのせいだって言われてるんだから

先生の話し方はとても静かだ。なのに焦りがにじんでいる。背中にナイフをつきつけられて、脅されているみたいだった。「ちょっと待ってください！」

気がついたら叫んでいた。お腹の底から言葉があふれて、口から飛び出した。大きく一歩、長谷川先生の前に進み出た。

「穂乃花はきびしかったし、みんな穂乃花が怖かったと思います。わたしも怖かったです。でも、それは先生だって同じです。先生だって穂乃花がやってることをわかって、ずっと何も言っていなかったじゃないですか！」

穂乃花の部長としてのふるまいは、きびしくて険しくて、行き過ぎだった。

でもそれは、先生が練習できびしいことばかりを言って、穂乃花に「あなたが部長としてちゃんとやりなさい」と言ってきたからだ。

「穂乃花が全然悪くないわけじゃないけど、でも……いまさら、全部全部、穂乃花のせいにするのはひどいです。先生は大人なんだから、いくらでも解決する方法があったはずなのに」

でも——どうしよう、どうしようと思いつつも何もできなかったわたしも、同罪だ。言いながら、胸の奥がずきりと痛んだ。

先生に何を言われるのか。もしかしたら引っぱたかれるんじゃないかと、身がまえた。

でも、先生は動かなかった。③ まばたきもせず、わたしを見ていた。

もしかして、凶星なの？

子どものわたしにすらわかっていただけだが、どうして先生にわからないの？

大きく喉を鳴らしてから、わたしは続けた。

「わたしは」

先生とわたしの身長は、ほとんど一緒だ。目線の高さも同じ。だから、お互いの顔が、目が、正面からよく見えた。

先生の目は、穴ぼこが開いたみたいにぼんやりとした色をしていた。

「わたしは、合唱が好きだし、みんなで全国大会で金賞が取りたいし、練習だって頑張ってやりたいと思ってます。でも、④ 今の合唱クラブは大嫌いです」

大きく息を吸い、ステージを下りた。ちらりと周囲を見たら、声も上げずに泣いている子が何人かいた。いきなり大声を出して、びっくりさせてしまったかもしれない。

体育館のすみっこにおいてあった手さげカバンをかかえて、体育館を出た。誰も、わたしを呼び止めなかった。

「お、真子ちゃんだ」

昇降口でくつに履き替えていたら、職員室からちようど南先生が出てきた。

「合唱の練習は？ もう終わったの？」

「怒って飛び出してきちゃいました」

正直に言っても、南先生は驚かなかった。「へえ、そっか」と笑顔まで見せた。

「このままクラブやめちゃうのかな、わたし」

不思議だった。やめたくない気持ちと、やめちゃうのかなという予感が、きれいに半分ずつある。悲しいとかくやしいとか怖いではなく、清々しい気持ちと一緒に。

「そのわりには、スッキリした顔をしてるね」

南先生には、わたしの胸の中が見えているらしい。

「言いたいことがやつと言えたから。何とかなるような気がするんです」

「そうだね。言いたいことを言うって、難しいけど大事なことだよ」

——長谷川先生もね。

ぼつりと続けた南先生に、わたしは「え？」と顔を上げた。

「長谷川先生も？」

「先生だって人間なもの。生まれたときから〈先生〉って特別な生き物だったんじゃないくて、真子ちゃんと同じ、ただの子どもの延長線上にいるんだよ。もちろん、わたしもね」

「子どもの、延長線上……」

「だから、<sup>⑤</sup> まちがったことをしちゃうこともあるの。そういうときはちゃんと、『先生、それはまちがってます』って言っているんだよ」  
ニコツと笑って、「じゃあね」と先生は保健室に向かって行く。

「明日、先生も半地下合唱団のステージ、見に行くから」

南先生に「さよーなら」と一礼して、先生の姿が見えなくなつてからも、わたしはしばらく、その場にたたずんでいた。

⑥ 開け放たれた昇降口のドアから、とても爽やかな香りの風が吹きこんできた。

風に導かれるように外に出て、空を見上げた。

空飛ぶお城のような大きな大きな入道雲が浮かんでいて、数日前に梅雨が明けたことを、わたしは思い出した。

自分がどれだけ臆病で、卑怯だったか、空の青さと雲の白さに思い知らされた気がした。

このままじゃダメだ。何とかしないと。どうしよう、どうしよう。何が問題なのか見えていたくせに、いつも「でも……」と行動を起さない理由を探してた。

長谷川先生や穂乃花を怒らせたらずいから。クラブのメンバーとの関係にひびが入ったら嫌だから。練習の空気をもっと悪くしてしまうかもしれないから。わたしが行動しても、何も変わらないかもしれないから。

何もできなかったんじゃない。何もしないまま、春を迎えて、梅雨が始まって、夏が来てしまった。

くつきりとしていた入道雲の青い輪郭が、にじんで、ゆれた。ソフトクリームがとけるみたいに、雲がゆがむ。

目元に両手を持っていつて、一度だけ、強く強くこすつた。

⑦ 太陽の日差しが雲の輪郭に当たって弾け、金色の粉になつて、わたしに降ってくる。

(額賀滯『ラベンダーとソプラノ』による)

(注1) 菅野さん…合唱クラブに所属する小学五年生。不登校になり、合唱クラブにも参加しなくなった。

(注2) 半地下合唱団…「わたし」が学校の外で参加している商店街の合唱団。

問一 波線部 a・b の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a しびれを切らした

- ア 怒りが積もった  
イ 集中力が切れた  
ウ 勢い余った  
エ 呆れ果てた  
オ 耐えられなくなった

b ふて腐れた

- ア 投げやりな態度をとるさま  
イ 挑発的な態度をとるさま  
ウ 諦めた態度をとるさま  
エ 嫌味な態度をとるさま  
オ 攻撃的な態度をとるさま

問二 空欄 I・II に入る漢字として適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 息    イ 音    ウ 喉    エ 耳    オ 膝    カ 頭    キ 首    ク 肩

問三 傍線部①「まるで犯人を尋問するような口調で」とありますが、どのような口調ですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 警戒している人をなだめるように説得する口調。  
イ 反省していない人を更生させようと諭す口調。  
ウ とことん責め立てて罪におとしられる口調。  
エ 隠しごとをする人を言葉たくみに誘導する口調。  
オ 悪いことをした人を問いただし追いつめる口調。

問四 傍線部②「穂乃花の声は、か細かった」とありますが、このときの穂乃花の気持ちとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 長谷川先生の言う通りに部員に厳しくしてきたのに否定され、とまどい不安に思う気持ち。
- イ 自分の言い分はいっさい聞いてもらえず一方的に怒られてしまい、もどかしく思う気持ち。
- ウ 部員に対する自分の接し方がまちがっていたことに気づかされ、深く後悔する気持ち。
- エ 長谷川先生に部員がさぼりで休んでいるのだと信じてもらえず、落胆する気持ち。
- オ 部員みんなが味方だと思っていたのに誰も肩をもってくれず、孤独を感じる気持ち。

問五 傍線部③「まばたきもせず、わたしを見ていた」とありますが、このときの先生の心境としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分に反抗的な態度をとってくる生意気な子どもに対し、憎たらしく思っている。
- イ 子どもの立場をわきまえない無礼な態度をとられ、指導の甘さを反省している。
- ウ 部員たちの前でひどく責められ恥をかいてしまい、大人としていたたまれない気持ちでいる。
- エ 部員全員から非難の目で見られていたことに気づき、自信を失い落ちこんでいる。
- オ 子どもから自分の行動についてするどく指摘され、何も言い返せず呆然としている。

問六 傍線部④「今の合唱クラブは大嫌いです」とありますが、「大嫌い」である理由を七十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑤「まちがったこと」とありますが、「わたし」にとって長谷川先生の言動のどのようなところが「まちがったこと」だったと考えられますか。七十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑥「開け放たれたく思い出した。」とありますが、この描写の本文中でののはたらしきとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 梅雨明けの晴れやかさが、南先生の言葉とともに「わたし」の心に沁み、よどんだ気持ち晴れていく様子を示している。
- イ 自然界の移り変わりを示すことで、「わたし」の心のよりどころも合唱クラブから南先生へ移り変わっていく様子を暗示している。
- ウ 天を連想させる情景を多く織りこむことで、「わたし」が神によって導かれていくような幻想的な世界を作り出している。
- エ 「わたし」の目に映る光景を一つずつクローズアップすることで、考えが次々に移り変わっていく様子を表現している。
- オ 情景の表現に子どもらしい比喩を用いることで、強気な態度でいた「わたし」にもまだ幼い部分があることを強調している。

問九 傍線部⑦「太陽の日差しが雲の輪郭に当たって弾け、金色の粉になって、わたしに降ってくる」とありますが、このときの「わたし」の心境としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 部長や先生と対立してしまっただが、次は自分が中心となって金賞を目指していく覚悟を決めている。
- イ 南先生と話をしたことで大人に抱いていた不信感が少しずつ薄れ、安心して心が落ち着いている。
- ウ たとえ金賞がとれなかったとしても、それ以上に価値があることに気づけた自分を誇りに思っている。
- エ 合唱部の問題から目をそらしていた過去と決別し、新しい自分に生まれ変わろうと決意している。
- オ 自分が正しいということを南先生に後押ししてもらい、悪を打ち負かした自分に自信がわいている。

## 二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

### 「親友」という危うさ

<sup>(注)</sup>子どもが築いた関係を通じて、親が成長を喜ぶ心情が伝わるかと思えます。学校での様子を親が気にかけるのは当然のことでしょう。でも、今の親子<sup>(ア)</sup>の会話には、子どもの話す力を伸ばすうえで危<sup>い</sup>、点<sup>が</sup>があります。

それは、子どもに対する「親友」ということばの価値づけです。

一見、「話す」という行為<sup>こうい</sup>とまったく関係がないように思えますが、子どもに「話す」という行為の価値を伝えるのに密接なつながりがあるのです。

まずは「親友」ということばの意味と価値から考えてみましょう。

「親友」というのは、基本的にどんなときも気持ち<sup>はな</sup>が離れない関係を言いますよね。自分が思っていることは素直に伝え、その気持ちを相手は正面から受け止めることになります。

「今、あなたに親友と呼べる人はどれだけいますか？」

突然<sup>とつぜん</sup>このように尋ねられたとしたら、<sup>①</sup>「なんだか身構えてしまいますよね。」

おそらく、何人かの友人を思い浮かべたことでしょう。迷いなくすぐに「この人だ」と断言できた人もいるかもしれませんが。でも、「本当にそう言えるのかな……」と、あらためて考え直した人の方が実際には多いのではないのでしょうか。

中・高生であれば「親友」ということばを日常的に使っている人もいるかもしれませんが。しかし、平然とこのことばを使う感覚に不安を覚えないでしょうか。

これは人を疑えという意味ではありません。そうではなく、あらためて「親友」ということばに真剣<sup>しんけん</sup>に向き合うことの大切さを伝えたいのです。

「親友」とは簡単につくることができません。長い期間を経て、お互<sup>たが</sup>いの考えを受け止め、ときには反発し合いながらも前に進む仲のことを指すのではないのでしょうか。もちろん、出会ったときから意気<sup>いき</sup>投合<sup>とうがっ</sup>して、一度も気持ち<sup>はな</sup>が離れたこと<sup>(イ)</sup>のない仲の人たちもいるかもしれませんね。しかし、そうであっても、はじめから「親友」とはならないはずですよ。

つまり、「親友」は「友達」という表現とは明らかに別の段階のものです。だから、すぐ<sup>すぐ</sup>に親友<sup>しんゆう</sup>になれるような関係は、「親友」とは呼べ

ないと思うのです。

警鐘を鳴らしているのは、<sup>②</sup>簡単に「親友」ということばを使い過ぎることです。EちゃんとNちゃんが考え方の違いから大きなけんかをしてしまったり、気持ちが悪化してしまったりすることもあるかもしれません。早く仲直りができればよいですが、場合によってはむずかしいこともあります。Eちゃんが「『親友』なんてまたすぐにできるからいいや」なんて考えたとしたら、それこそ「親友」は軽いことばになってしまいます。

反対に、親が「ずっとNちゃんといっしょにいたほうがいい」と強く伝え過ぎることも問題です。こうすることで、Eちゃん自身に「Nちゃん以外に行き場所はもうない」と学習をさせているのです。それは、子ども <sup>(ウ)</sup>の交友関係の可能性を閉じてしまうことになります。

決して「親友」の存在を否定しているわけではありません。特別仲のいい関係が築けたことはすてきなことです。事実として、生涯にわたっての付き合いになることもあるのですから。でも、「親友」ということばの本当の意味と価値を知るのは、もう少し先でも十分だと思うのです。子どもの成長に関わることだからこそ、大人がことばの重みを正しく捉えさせることが必要なのです。

### 「安定した環境」で成長するとはかぎらない

「親友」ということばを簡単に使ってしまう怖さは、人と <sup>(エ)</sup>のつながりを極端に狭めることに直結する点にあります。わかりやすく言えば、特定の人間以外と話す場面が減ることを意味します。

交友関係が安定するのは心地いいものです。心がおだやかになり、<sup>b</sup>波風が立たない状況なのです。親が子どもに「親友」ができることを望みがちなのも、安定を求める気持ちの表れなのです。

しかし、おだやかで波風が立たない環境というのは、子どもの精神的な成長にとって決して望ましいことだけではありません。子どもの発達には「変化」も重要です。<sup>③</sup>「安定」とは真逆の環境が求められるのです。安定は、それ以上の大きな進展を望めないということなのですから。

これは組織も同じでしょう。どのような人の集まりであつても、安定をめざすためには、人々のつながりを強めようとしています。チームとして機能するようにするためです。でも、同時に安定とは「X」をも意味します。次に大きく成長をするためには、あえて安定した環境を壊すことも必要でしょう。

だから、子どもを伸ばすためには、異なる人の考えや価値観を受け入れるという視点が欠かせません。この「受け入れる」というのは、

自分自身の考えを一八〇度すべて変えるという意味ではありません。「こういう考えの人もいるのだ」と客観的に自分の考えを見つめ、視野を広げることです。

人は考え方や価値観が似ている人に惹かれます。同じ趣味や嗜好が集まると、居心地がいいものです。話が合うのですから、自分自身が常に受け入れられているという感覚を覚えるでしょう。でも、成長という観点から見ると、それだけでは足りないのです。

まして子どもは、発展途上の段階です。いつその成長を願うのであれば、積極的にさまざまな人との関わりをもたせることが大事になります。そこに「話す」ということばの本質的な意味と価値が潜んでいるのです。性別も年齢も国籍も関係なく、人との接点を増やすことが求められます。意識していなかった自分自身(オ)の新たな一面に気がつくこともあるでしょう。

(岸圭介『学力は「ごめんなさい」にあらわれる』による)

(注1) 子どもが築いた関係を…これより前の部分で挙げられている、Eちゃんとその母の会話について述べている。EちゃんにはNちゃんという親友ができ、学校での人間関係がうまくいっていることを知った母はほっと胸をなでおろし、我が子に心を許せる友達がいることにしみじみとした気持ちを抱く。

(注2) 警鐘を鳴らしている…危険が迫っていることを知らせ、警告している。

問一 波線部 a～c の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a 意気投合

- ア 張り切って新たな出会いにのぞむこと。  
イ 仲間として一緒に行動すること。  
ウ 相手の意見に合わせること。  
エ 互いの気持ちがあひたり合うこと。  
オ 自分の気持ちに従うこと。

b 波風が立たない

- ア 争いやめめごとのないさま。  
イ 状況が一転するさま。  
ウ 緊張感がないさま。  
エ 予定通りに進んでいるさま。  
オ 活力が感じられないさま。

c 客観的

- ア 目の前の事実を無視して、直感的に物事を見ること。  
イ 自分の気持ちを排除して、第三者の立場で物事を見ること。  
ウ 自分の気持ちを排除して、仲間の意見に合わせて物事を見ること。  
エ 他人の気持ちを思いやり、共感しながら物事を見ること。  
オ 他人の気持ちを無視して、自分の気持ちに基づいて物事を見ること。

問二 二重傍線部(ア)～(オ)の「の」の中で、はたらきの異なるものを一つ選んで、記号で答えなさい。

問三 傍線部①「なんだか身構えてしまいますよね」とありますが、それはなぜですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア なんとなく親友と呼んでいた相手が、本当に親友と呼ぶにふさわしいのかと心配になるから。  
イ 中高生の頃には当たり前になっていた親友が、今や一人もいなくなったことに気づきシヨックを受けるから。  
ウ 親友がいるのが当然のようにたずねられたのに、親友が全くいないことに焦りを感じるから。  
エ 本来にその人は親友かと聞かれ、自分たちのきずなを軽んじられている気がして腹立たしいから。  
オ 中高生にとって親友がいることなど当然なのに、それをあえて聞いてくることを不審に思うから。

問四 傍線部②「親友」ということばを使い過ぎる」とありますが、

(i) 子どもたちがそのようにするのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

(ii) 本来「親友」とはどのような関係を指すことばだと筆者は考えていますか。本文中から四十字程度で抜き出し、最初と最後の五字ずつを答えなさい。

問五 傍線部③「安定」とは真逆の環境が求められる」とありますが、それはどのような環境ですか。その説明としてもつとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア わずかな親友との交友関係に留まらず、より広く同じ趣味をもつ仲間を探さなければならない環境。

イ 親友をはじめとする自分と近い価値観をもつ人でなく、多様な人々と関わらなければならない環境。

ウ 現在の親友との関係性に満足するのではなく、さらに深い関係になるために努力しなければならない環境。

エ 自分という個人の安定にこだわらず、組織というより大きな存在の成長のために働かなければならない環境。

オ 親友と呼べる相手を見つけないことができず、誰にも頼らず自分一人で思い悩まなければならない環境。

問六 空欄Xに入る言葉としてもつとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 定着                   イ 継続                   ウ 平穩                   エ 停滞                   オ 調和

問七 傍線部④「話す」ということばの本質的な意味と価値」とありますが、筆者は「話す」ことにどのような「意味と価値」があると考えていますか。六十字以内で説明しなさい。

問八 本文の特徴とくちゆうの説明として適当なものにはA、不適当なものにはBを、それぞれ解答欄に答えなさい。

- ア 本文前半で読者に質問する形をくり返すことで、読者が文章内容を身近な問題としてとらえやすいように工夫している。
- イ 「でも」という話し言葉でよく使われる表現をあえて用いることで、「話す」というテーマについて考えやすくしている。
- ウ 「話す」という語にかぎかっこを使用することで、日常で使われている軽い意味合いの「話す」と区別している。
- エ ていねいな言葉づかいで書くことで、日常の親友との会話においてもこのような言葉づかいを手本とすべきと伝えている。
- オ 「のです」という表現をくり返すことで、子どもに親友という言葉の正しい意味を今すぐ教えるべきだと強く主張している。

三 次の①～⑤の傍線部ぼうせんぶのカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 大切なことは何か、シユシヤせんたく選択する。
- ② 子孫にどのようにイデンいでんするか研究する。
- ③ 敵のケイリヤクけいりやくにかからないよう気をつけよう。
- ④ 国語の入試ではカンヨウクかんやうくの知識が大切だ。
- ⑤ 罪を犯した人をサバクさばく。

注意  
字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。

□□	□	□	□□□□	□□□□□□
----	---	---	------	--------

問九	問八	問七				問六				問五	問四	問三	問二	問一
													I	a
													II	b

□	□	□	□□□	□	□□□
---	---	---	-----	---	-----

問八	問七				問六	問五	問四				問三	問二	問一	
ア							ii	i						a
イ													b	
ウ							}						c	
エ														
オ														

①
②
③
④
⑤
く

受験番号	フリガナ
	氏名

得点	
----	--

注意  
も一字制限の問題では、句読点

②×5

②×5

⑧

②

④

④

⑥

③

②

②×3

④

④

⑨

⑧

④

④

④

②×2 ②×2

①	問八	問七				問六	問五	問四				問三	問二	問一	
取捨	ア	見	る	な	自	エ	イ	ii	i				ア	(イ)	a
	A	つ	こ	人	分			長	。	定	を	一			エ
②	イ	め	と	々	と	間	を	い		し	理	親	ア	b	
	B	直	で	と	は			期		て	解	友			
遺伝	ウ	し	、	コ	異	を	く	間		い	し	一	c	ア	
	A	成	分	ユ	る			を		る	な	と			
③	エ	長	の	ニ	考	前	に	を		心	い	い	イ		
	B	し	考	ケ	え			進		地	ま	う			
計略	オ	て	え	一	方	む	仲	に		よ	ま	言	イ		
	B	い	や	シ	を			進		さ	、	葉			
④	B	く	価	ン	も	を	求	を		を	交	の	イ		
		こ	値	ン	つ			を		を	交	の			
慣用句	。	と	観	を	多	。	。	を		を	友	本	イ		
		と	観	を	多			を		を	友	本			
⑤	。	と	観	を	多	。	。	を		を	交	の	イ		
		と	観	を	多			を		を	交	の			
裁(く)	。	と	観	を	多	。	。	を		を	交	の	イ		
		と	観	を	多			を		を	交	の			

問九	問八	問七				問六				問五	問四	問三	問二	問一		
エ	ア	よ	傷	ぬ	る	穂	て	持	色	た	合	オ	ア	オ	I	a
		う	つ	ふ	こ	乃	い	ち	を	い	唱				ア	オ
		と	い	り	と	花	る	が	う	の	ク				II	b
		し	た	を	を	が	か	別	か	に	ラ				ク	ア
		た	原	し	分	下	ら	の	が	、	ブ					
		こ	因	て	か	級	。	方	い	部	の					
		と	を	い	っ	生		向	合	員	み					
		。	穂	た	て	に		に	い	同	ん					
		乃	の	い	厳			、	士	な						
		花	に	な	し		か	そ	で	で						
		に	、	が	く		っ	れ	お	金						
		押	下	ら	接		て	ぞ	互	賞						
		し	級	見	し		し	れ	い	を						
		付	生	て	て		ま	の	の	取						
		け	が	見	い		っ	気	顔	り						

受験番号	フリガナ	
	氏名	

得点	
----	--